

質問紙調査の見直しの基本的な考え方について（案）

- 学力調査開始当初と比べ、質問紙調査の質問数が増加してきていることから、10年間の各質問の回答状況等も踏まえ、質問項目を整理する。

【参考】	(平成20年度調査)	(平成29年度調査)
児童生徒質問紙	小75問、中75問	→ 小92問、中94問
学校質問紙	小97問、中95問	→ 小111問、中109問
(※マニュアル上、小学校は20~40分程度、中学校は20~45分程度としている)		

- 特に、児童生徒質問紙調査については、理科や英語の調査が新たに実施されるなど、教科に関する調査の負担が増加していること等も踏まえ、質問項目を精選する。

- 具体的には、教育振興基本計画の成果指標等として位置づけられているものを毎年の質問項目とし、その他の項目は、必要に応じて数年おきに定期的に質問項目とすることで、全体の項目数を整理・削減する。

- 一方で、新学習指導要領の趣旨等を踏まえて、新たに必要な質問項目の追加を検討するとともに、既存の問についても、質問文の文言が適当かなどについて確認し、必要な見直しを行う。